

「ニコニコ最強」

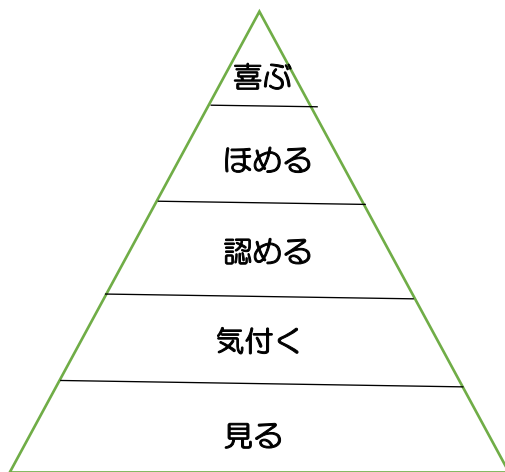
2026・7・8 重枝 一郎

「承認欲求」と聞いて、何を考える？ 「他者から認められたい」、「自分を価値ある存在として認めたい」、「マズローの承認欲求」・・・でも、この欲求が強すぎると、他者の評価に依存して生きづらくなる。

よく聞く、「マズローの欲求5段階説」は人間の欲求を階層的に捉えた心理学理論になる。人間の欲求が低次から高次へと順次満たされていくことを5つの階層に分類しており、具体的には、生理的欲求、安全欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現である。

今号では、「承認欲求」を満たすことを、私たち大人（親・教師）が普段使いしているかをわかりやすく話してみたい。

私は、「承認欲求」＝「ほめる」は、古い感じがしている。もう少し言うと「いきなりほめる」は、「承認欲求」を高めるセンスがなしと思う。私たちの日常遣いしている行動を、「マズローの欲求5段階」のように、「承認欲求」に絞って図にしてみる【下図】。



このことを考えたきっかけは、6月8日の朝、生徒が校長室に来て、「校長先生に見てほしいものがあります」と話しかけられた時のやり取りが考える動機になった。以前、左図のことをある心理学の話でメモをしていた。それが関連付いた。

実際のやり取りで説明すると・・・

- ① 生徒が「校長先生に見てほしいものがあります」。私は、生徒が手に持っている賞状やトロフィーを、自分の手に取って、じっくり、ニコニコ顔で「見る」。おそらく、私の満足そうなニコニコ顔だけで、生徒の承認欲求は高まっている。例えば、自分の好きな歌手のコンサートで、ステージの歌手と目が合った（おそらく相手は暗くて見えてない・笑）と思っただけで、「見られた～」と喜んで、またコンサートに行く。これも「承認欲求」になる。つまり、「ほめる」までしなくても「見る」をすることがまずは大事になる。そして、この行動は、どんな教師でも、すべての生徒が対象でできることである。
- ② 次に、「ほう、空手か、型じゃなくて組み手の部門か」って、何かに「気付く」。気付いたことを話したり、質問したりすると、もう一段、承認欲求が高まっている。
- ③ 「3位か。空手していたんだね。いつから空手してるの」って、「認める」。ここで思うのは、例えば、子どもが100点のテストを持って帰ってきた時、親は「やったー（喜ぶ）」。70点のテストを持って帰って来た時は？ よくあるのが、「このテストの平均点は？」このような無駄な質問はしない。
- ④ そして、私はその生徒に、「すごいじゃないか」って、ここで「ほめる」。
- ⑤ その後、「一緒に写真撮ろう。HPで紹介したい」って、「喜ぶ」。写真を撮った後、「今日は朝からすごくうれしい」って、「大喜び」。

間違いなく生徒の「承認欲求」は、高まっていると思う。おそらく、①の「見る」だけでも「承認欲求」は上がる。いきなり、ただ「ほめる」ことよりも、①から③までを普段使いにしているだけで、生徒の「承認欲求」に刺さると思う。私たちは「ほめる」ことを求められるあまりに、形だけの「ほめる」をしていないか。私は、「承認欲求」を高めるのは、ニコニコしている大人が最強だと思っている。先生たちも親御さんからいろいろな相談を受け、アンサーする場面があると思う。もし、親がしかめっ面なら、親に「ニコニコ最強！」と言おう。